

Rd5. SUZUKA

<<JSB1000>>

チーム発足初年度でシリーズランキング 2 位

コロナ禍を受けて異例の 8 月開幕となった 2020 年全日本ロードレース選手権。台風による中止もあり異例づくめの今シーズンは全 4 戦となり、最終戦が 10 月 31 日、11 月 1 日に鈴鹿サーキットで行われた。

発足 1 年目の Keihin Honda Dream SI Racing は清成龍一選手がランキング 2 位、渡辺一馬選手が 7 位につけて 2020 年最後のレースに挑んだ。

●10 月 31 日 (土)

予選 Result 天候：晴れ | 気温：15°C | 路面状態：ドライ

◆清成龍一 選手 R1 4 位 / R2 4 位

◆渡辺一馬 選手 R1 6 位 / R2 5 位

肌寒さを感じるものの気持ちの良い秋晴れのもと、JSB1000 クラスの公式予選が開始された。

清成選手、渡辺選手ともに 2 分 5 秒台へとタイムを上げ、さらなるタイムアップを狙ってトライを続けるなか、清成選手がシケインで、渡辺選手がデグナーで立て続けに転倒、マシンが大破し予選を最後まで走り切ることができなかった。

両選手ともそこまでに記録していたタイムが予選同日の決勝レース 1、翌日の決勝レース 2 のグリッドとなり、清成選手はベストタイム 2'05.215、セカンドタイム 2'05.725 を記録してレース 1、2 ともに 4 番手スタート。渡辺選手はベストタイム 2'05.952、セカンドタイム 2'05.961 でレース 1 を 6 番手、レース 2 を 5 番手からスタートすることとなった。

決勝レース 1 Result 周回数：14 | 天候：晴れ | 気温：17°C | 路面状態：ドライ

◆清成龍一 選手 4 位

◆渡辺一馬 選手 6 位

午前中の子選で転倒を喫してしまいマシンが破損した清成、渡辺の両選手。チーム、関係スタッフの懸命の作業により 2 台とも 15 時の決勝レース 1 のスターティンググリッドにつくことができた。両ライダーとも完全とは言えない体調のなかでレースがスタート、清成選手は 4 番グリッドから単独走行が続き、そのまま 4 位でフィニッシュ。渡辺選手は 6 番手スタートからオープニングラップで一時順位を落とすも、粘り強く順位を挽回し 6 位でレースを終えた。

●11 月 1 日 (日)

決勝レース 2 Result 周回数：16 | 天候：晴れ | 気温：18°C | 路面状態：ドライ

◆清成龍一 選手 2 位

◆渡辺一馬 選手 5 位

レースウィークを通して秋晴れに恵まれた鈴鹿サーキット。一時太陽をさえぎった雲もなくなり、秋の日差しが差すなか 15 時 5 分、いよいよ 2020 年シーズン最後となる決勝レース 2 の幕が上がった。

清成選手は見事なスタートダッシュでホールショットを奪い、そのままオープニングラップを制してレースをリードする。しかし 4 周目に 2 番手に浮上してきた野左根選手(YAMAHA FACTORY RACING TEAM)が清成選手に迫り、シケインで抜かれ 2 位となってしまう。5 周目、中須賀選手(YAMAHA FACTORY RACING TEAM)と渡辺一樹選手(YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING)にかわされた清成選手は一時 4 番手までポジション

ダウンする。しかし、8周目に130Rで渡辺一樹選手を捉えて3番手となり、前を行く中須賀選手が転倒し清成選手は2番手に再浮上し、トップの野左根選手を追いかける。その後方では渡辺一馬選手が濱原選手(Honda Dream RT 桜井ホンダ)、加賀山選手(Team KAGAYAMA)との5番手争いを展開する。清成選手は懸命にトップを追いかけるもおよばず2位でチェッカー、渡辺一馬選手は激しいバトルを制し、最後は後続との差を広げて5位フィニッシュとなった。

最終戦の結果を受けて2020年シーズンのシリーズランキングが確定。清成龍一選手がランキング2位、渡辺一馬選手がランキング5位となり、Keihin Honda Dream SI Racingは1年目のシーズンを終えた。

今季誕生したKeihin Honda Dream SI Racing、チームもマシンもすべてが新しいというチャレンジにコロナ禍がかさなるという難しい状況ではありましたが、たくさんの皆さんから多くのお熱いご声援、応援をいただきました。たくさんの応援ありがとうございました。

●Comments

◆伊藤真一 監督

ライダー3人(ST1000クラス作本選手含む)が最終戦のレースウィークに転倒。それも、大きくマシンを破損する転倒でした。それでも大きなケガもなく、グリッドに並べたことが幸いでした。チームスタッフが懸命にマシンを修復し、多くの方のサポートで、マシンをグリッドに並べることができました。それにこたえて、ライダーたちは懸命に挑んでくれました。

目指しているものは優勝、タイトル獲得でした。結成1年目のチームが掲げる目標としては高いものですが、真剣にそれを目指して戦ってきました。2位や3位では誰も満足せずにはいます。この目標に向かって、チームが一丸となれたことを誇りに思います。

新型コロナウイルスの影響で、短いシーズンでしたが、レースができたことに感謝するとともに、サポートしていただいたケーヒン様、ピーアップワールド様、ホンダモーターサイクルジャパン様、そして応援していただきました皆さんに深く感謝いたします。ありがとうございました。今季の経験を大事に積み上げ、さらに強いチームになるよう取り組みます。

◆清成龍一 選手

予選の走り始めは2分5秒台を出すのは難しいだろうと思っていたのですが、走り出すと5秒台を連続で記録することができ、このまま調子を上げていけば4秒台も見えるという感触をつかんでいました。ですが、フロントが切れ転倒してしまい、4秒台にトライすることができず悔しいです。

スポーツ走行、予選と2日間で大きな転倒を2回してしまい、まさに途方に暮れるという表現がぴったりの状態でしたが、たくさんの方々の助けで身体のケアとマシンの修復をしてもらい、決勝レースのグリッドにつくことができました。チームがマシンをちゃんと走れる状態にしてくれたおかげで良いフィーリングで走ることができ、感謝の言葉しかありません。

レース1ではトップ3台に届かず、レース2は中須賀選手の転倒にも助けられての表彰台です。課題は多く、内容としてはまったく納得できていません。来年のことはまだわかりませんが、その課題に取り組んで解決したいと思います。

短いシーズンではありましたが、レースができたことをうれしく思っています。支えていただいたたくさんの方々に感謝いたします。

◆渡辺一馬 選手

デグナーでは、いつもゼブラの上でブレーキングをしていますが、予選の転倒時はタイミングが合わずフロントが滑ってしまい、ハイスピードでクラッシュしてしまいました。マシンには大きなダメージが残り、チームスタッフに負担をかけることになりました。

ここまで2分6秒台を切り、5秒台に入れるといういい流れできていただけに残念です。激しいクラッシュで精神的にも衝撃が大きかったですが、予選後は気持ちを切り替えることに集中しました。メインカーを失いましたが、チームが懸命にセットを仕上げてくれました。

決勝レース1ではスタートからの位置取りを失敗してしまい、上位に出るのに時間がかかってしまったことが悔しいです。

決勝レース2では、2コーナーで接触があり、大きく遅れてしまい、そこから追い上げとなり、懸命にポジションを挽回していききました。

最終戦を最高の結果で終えたいと考え、良い流れできていただけに残念で悔しい気持ちが強いですが、チームへの信頼、すごさを感じたレースでもありました。それに応えることができるように努力していきたいです。1年間応援ありがとうございました。

Rd5. SUZUKA

<<ST1000>>

連続3位表彰台獲得、シリーズを3位で終える

2週間前の第4戦もてぎで今季初となる3位表彰台を獲得した作本輝介選手。そのアグレッシブな走りに期待と注目を集めるなか、鈴鹿サーキットで最終決戦を迎えた。

●10月31日(土)

予選 Result 天候：晴れ | 気温：16℃ | 路面状態：ドライ

◆作本輝介 選手 8位

やや肌寒いもののおだやかな秋晴れのもと11時から30分間の公式予選が開始された。

作本輝介選手はトップと1.112秒差の2'09.951で翌日の決勝を8番手から上位を目指しスタートすることとなった。

●11月1日(日)

決勝 Result 周回数：11 | 天候：晴れ | 気温：18℃ | 路面状態：ドライ

◆作本輝介 選手 3位

13時55分、11周と今季最少周回で行われる最後の決勝レースがスタートした。

予選8番手からスタートした作本選手は今回もスタートをうまく決め、オープニングラップで4番手、2周目には津田選手(WestPower・S-SPORTS・SUZUKI)をかわし、2番手まで順位を上げる。7周目にミスしたところを津田選手、伊藤選手(伊藤レーシングEDPAS ヤマハ)、岩戸選手(PPT Vamos Racing with A-TECH)と立て続けにかわされて一時は5番手までポジションダウンしてしまうが、8周目には岩戸選手を抜き返し4番手に再浮上する。その後、津田選手との激しい3番手争いを制し、今シーズン2度目の表彰台を獲得した。

この結果、作本選手はシリーズランキングでも3位に浮上、2020年シーズンを締めくくった。

今シーズン新設されたST1000クラス、Keihin Honda SI Racing初年度でのシーズンを終えることができました。皆さん、たくさんの応援ありがとうございました。

●Comments

◆伊藤真一 監督

またしても予選で上位に食い込むことはできませんでしたが、決勝では期待した通りの追い上げで最後には表彰台を獲得してシーズンを締めくくり、シリーズランキングも3位で終えることができました。

応援して下さいましたすべての方に感謝しています。ありがとうございました。

◆作本輝介 選手

思うようにいかないレースウィークでした。事前の走行で確認作業をしながらセッティングを詰めましたが、自分の思うようなところを見つけることができずに予選のタイムに結びつきませんでした。決勝でもトップ争いに遅れてしまい、追い上げのレースになりました。後半にはタイヤのライフがきつくなり、ペースを維持することができませんでした。

今季二度目の表彰台ですが、嬉しい気持ちよりも悔しい気持ちの方が大きかったです。まだ、マシンやタイヤへの理解が不足しており、課題も多いので、それをクリアできるようにさらに努力します。それでも4戦を走り切ることができて得られたことも多いので、それを今後活かしていきたいです。

応援して支えてくれた皆さんに感謝しています。ありがとうございました。